

## 第3学年 社会科 学習指導案

奈良市立朱雀小学校 講師 原田龍ノ助

### 1. 単元名 おそろしい火事からくらしを守ろう

#### 2. 単元の目標

○火災が起きた際に、消防署や警察署、各関係機関、地域がくらしを守るためにどのように協力して動いているのか、また、火災後もどのように連携しているのかを知り、防災の必要性をまとめることができる。  
(知識及び技能)

○学習した内容や、実際に消防署で聞いた話をもとに防災の必要性を考え、学校内、地域に伝えることができる。  
(思考力・判断力・表現力等)

○自分たちにもできる防災があるという意識を持って、今後も周りと協力していく必要性を感じる。  
(主体的に学びに取り組む態度)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

本教材では、わたしたちの奈良市より「3. 地域のくらしを守る～おそろしい火事からくらしを守ろう」を教材として取り上げる。

住民の命や財産を火災から守るために消防署や通信指令室から各関係機関への連絡等の働き方を学ぶことができる。奈良北消防署には、奈良市と木津川市で共有している梯子車がある。梯子車を共有している経緯を学ぶことで地域連携について学ぶことができる。消防士から勤務についてお話いただくことで、私たちの生活を隙間なく見守ってくれていることも知ることができる。

朱雀小学校校区の女性防災クラブの方を招き、紙芝居などで身近な問題として捉え、自分事として火事を捉えられるようにしたい。

消防士、女性防災クラブの方などと出会うことで児童の興味関心が更にひきだせる教材である。

##### (2) 児童観

本学級の児童は、防災については学校内で行われている避難訓練や、一部の児童は地域の避難訓練にも参加している。防災への関心は高いとは言えないが、学校内の消火器の場所や火災報知器の位置や避難経路を把握していた。しかし、自分の家で火事になったときには、どこに避難するのかを把握していない児童がほとんどであったため、自分事として掴みきれていない。しかし、興味関心が様々なことに向きやすいため、その力を上手く使って学びを深めていってほしい。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、火事とは何なのか、どのような原因があるのかを教科書で学習する。さらに、火事が起こる前、火事が起こっている最中、消火できた後で対応してくれる機関や人がいると伝える。その意図としては、児童の中では「火事＝消防士」という認識をしている児童がほとんどであると感じたからである。しかし、他にも活躍している人がいることを気づかせ、多面的な見方・考え方を育てたい。

次に、実際に消防署へ見学に行くことによって現場の人たちの話を聞いて、自分たちのために命がけで働いてくれていることに気づかせたい。そのすがたを知ることにより、「自分たちにも出来ることはあるのだろうか、あるのではないか」という思いを持ってほしい。

また、火事に対して「正しく恐れる」大切さを気づかせたい。例えば、火災報知機のサイレンの音を聞いて素早く避難できる児童は少ないと考える。これは、「知らない」ことが大きな要因だと考える。したがって、「知らないからできない」を少しでも減らしたい。

今までの価値観が変容する際に、その変化を新聞記事などにすることにより、児童一人ひとりの中に学んだことを落とし込み、他の人にも共有する力を身につけられるようにする。

### (4) ESD との関連

#### 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・責任性…自分たちにも火事を防ぐ手段はあって、それを実行する必要があると感じる。

#### 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・進んで参加する態度…自ら、火事を防ぐための行動を起こしていく。
- ・コミュニケーションを行う力…防災の大切さを校内の児童に向けて発信する。ポスターや新聞を使って防災の大切さを伝える。

#### 本学習で変更を促す ESD の価値観

- ・世代間の公正…地域の方々にも、防災について発信をしてみんなで火事を防いでいくという意識を持つ。
- ・世代内の公正…火事の事前・事中・事後の対応の中で協力する必要性を知る。

#### 達成が期待される SDG s

目標 7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに (7. 1)

目標 10 : 人や国の不平等をなくそう (10. 2)

目標 11 : 住み続けられるまちづくりを (11. b)



## 4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために相互に関係して緊急時に対処する体制をとっていることを理解している。</p> <p>②見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめている。</p>	<p>① 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現している。</p>	<p>①防災(火事)について学んだことを他人に発信しようとしている。</p> <p>②防災について、自分にできることを考えようとしている。</p>

### 5. 単元の指導計画 (全 11 時間)

学習活動	○学習への支援	評価・備考
<p>1 火事とはどのようなものなのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火ってこんなに速く燃え広がるんだ。</li> <li>・やっぱり、火事って想像しにくいな、</li> </ul>	<p>○教科書やその他の教材を使い、火の燃え広がり方など、身近に思えるように伝える。</p> <p>○火災報知器の音を聞かせることにより、非常時の音であると認識させる。</p> <p>○地域の女性防災クラブの方々に紙芝居をみせてもらい自分事に近づけるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
<p>2 火事の原因はどのようなものなのか知る。</p> <p>3 火事が起きた時に自分たちを助けてくれる人たちの存在を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防士さんだけじゃなくて消防団の人たちもいるんだ。</li> <li>・自治会の人たちが火事後、助けてくれることもあるんだ。</li> <li>・みんなで助けることが必要なんだ。</li> </ul>	<p>○自分たちの生活の周りにある危険にも目が向くように発問する。</p> <p>○火が消えた後はどのように過ごしていけばよいかを問いかけて、火事の事後にも、しないといけないことがあることを伝える。また、助けてくれる人もいることを伝える。</p>	<p>イ① (思判表)</p>
<p>4 どのようにして自分たちは守られているのかを知る。(消防署へ見学へ行く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり消防士さんはカッコいい</li> <li>・命を懸けてまもってくれているんだな、</li> </ul>	<p>○実際に消防署へ庁舎見学に行き、話を聞く。</p> <p>見学へ行く前に質問事項を考えていく。</p>	

<p>5 見学をして学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火を消すことはすごく大変なんだ。</li> <li>・火事が起こった時だけじゃなくて、訓練したり準備したり大変そう。</li> </ul>	<p>○見学の様子を掲示しながら振り返りをする。</p>	<p>ウ② (主体的)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>ア① (知・技)</p>
<p>6 自分たちにできる火災予防は何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家でも出来ることを家族と確認しよう。</li> </ul>	<p>○してもらっただけではなく、火事が起こる前に何が出来るのか、見学した時の振り返りを基に考えさせる。火災予防の視点を持たせることで、当事者意識を持たせたい。</p>	
<p>7 学んだこと、考えたことを新聞記事にして学校、地域へ発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をしたらいいかわかりやすく書かないと。</li> </ul>	<p>○見学の様子を写真を用いて、学習した記事作りや火災予防マップが出来るようにする。</p>	
<p>8 本単元の学習と自分の考え方の変化の振り返りをする。</p>	<p>○能登半島地震の火災の様子もテレビで見て、学習前と学習後の火災に対する考えや捉え方がどのように変化したのか分かるようにする。</p>	